

自然に親しみ、自然を愛護する教育実践

——野鳥の観察を通して——

足利市立筑波小学校

研究主任 亀田 通

1 はじめに

筑波小学校区は、足利市の最南端に位置し、市街化調整区域であり、米作、畑作の他、イチゴ、トマト、花等の生産が行われ、豊かな自然に恵まれた地域である。

本校は、「やりぬく力・思いやる心」を学校教育目標の指標とし、子供像の一つに「自他の命を尊び、動植物を愛する子」を掲げている。そして、地域の自然や文化に親しみ、豊かな情操を育むことをあい言葉に、歴代校長をはじめ、教職員、PTA等がその環境づくりに努力してきている。

平成2年度に、栃木県林務観光部から「野生生物保護（愛鳥モデル校）の研究」を委嘱され、これを契機に、日々の教育活動に位置付け、研究に取り組んできた。

平成2年度は、野鳥への関心を高めるために、県の野鳥の会の方を招いて愛鳥学習会を開いたり、学校や家庭など、身近に飛来する野鳥の観察を中心に活動をすすめてきた。

平成3・4年度は、探鳥を中心とした愛鳥活動を通して、野鳥が生息できる自然環境を守ったり、かけがえのない野鳥の命を大切にしていくこうとする児童に育っていく活動を推進し、その研究成果を、平成4年8月「野生生物保護実績発表大会」において発表し、優良校として表彰された。

2 自然に親しむための主な環境整備

昭和53年 8月 ゆりの木農園（教材園・学級園等）完成

58年 3月 昆虫観察小屋完成

7月 （学校環境緑化コンクール県南地区優良校受賞）

8月 理科観察施設（池・森林・岩石等）整備

11月 （ソニー理科教育振興資金優良校受賞）

12月 同上記事業 観察池完成

60年11月 县緑化推進委員会より樹木の寄贈を受ける。

61年 5月 「ゆりの木動物園」完成

平成 2年 7月 （栃木県林務観光部から「野生生物保護（愛鳥モデル校）の研究を委嘱される。）

10月 地域マップの完成

3年 3月 うさぎ小屋完成

4月 野鳥観察スコープ5台、望遠鏡4台、双眼鏡3台購入

4年 8月 （第16回野生生物保護実績発表会優良校受賞）

3 活動目標

- 自然を知ろう……………野鳥を観察し、身近な自然を発見しよう。
- 自然に親しもう……………野鳥や自然に親しもう。
- 自然を守ろう……………野鳥を守り、自然を大切にしよう。

4 活動組織



5 活動の主な内容と経過

愛鳥活動の目的

- 学校や家庭など、身近に飛来する野鳥の探鳥活動を通して、野鳥に対する興味・関心を高め、野鳥に対して親近感のもてる児童に育てる。
- 野鳥に関する行事や活動を通して、野鳥に親しみ、進んで野鳥愛護、自然保護に努めることでできる児童に育てる。

	自然を知ろう	自然に親しもう	自然を守ろう
	野鳥を観察し、身近な自然を発見しよう	野鳥や自然に親しもう	野鳥を守り、自然を大切にしよう
平成2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・愛鳥学習会 ・学校に飛来する野鳥の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒマワリ、トウモロコシ等の餌の栽培 ・野鳥の写真展示 ・野鳥の本の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域クリーン活動への参加 ・各委員会による自然保護活動の計画実施
成果	<ul style="list-style-type: none"> 筑波地区の自然や環境の様子を知ることができ、野鳥や自然に対しての関心が高まってきた。 		
平成3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・愛鳥学習会 ・愛鳥集会 ・P T A 親子探鳥会 ・全校探鳥会（毎週木曜日） ・公開探鳥会 ・町内別探鳥活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛鳥コーナー (野鳥観察スコープ望遠鏡、双眼鏡) ・野鳥の鳴き声クイズ ・野鳥新聞の発行 ・野鳥の写真展示 ・野鳥の鳴き声放送 ・愛鳥かべ新聞 ・愛鳥ポスター作成 ・野鳥だよりの発行 ・野鳥クイズ作成 ・野鳥の鳴き声クイズ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域クリーン活動への参加 ・代表委員会及び各委員会の愛鳥活動 ・巣箱の作製・設置・清掃 ・給餌台の作製・設置・活動 ・水飲み場の作製・設置・活動 ・ヒマワリ、トウモロコシ等の餌の栽培 ・実のなる木の植樹
成果	<ul style="list-style-type: none"> 全校探鳥会（週1回）や親子探鳥会及び公開探鳥会、愛鳥学習会や愛鳥集会等で、児童の野鳥に対する興味・関心が高まってきた。 ・巣箱製作や巣箱かけ、給餌台製作やその設置及び給餌活動、実のなる木の植樹、水場づくり等を通して、野鳥に対する温かい思いやりの精神が育ってきた。 		
平成4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・愛鳥学習会 ・愛鳥集会 ・P T A 親子探鳥会 ・全校探鳥会（毎週木曜日） ・公開探鳥会 ・町内別探鳥活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛鳥コーナー（野鳥観察スコープ望遠鏡、双眼鏡） ・野鳥の鳴き声クイズ ・野鳥新聞の発行 ・野鳥の写真展示 ・野鳥の鳴き声放送 ・愛鳥かべ新聞 ・愛鳥ポスター作成 ・野鳥だよりの発行 ・野鳥クイズ作成 ・野鳥の鳴き声クイズ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域クリーン活動への参加 ・各委員会の愛鳥活動 ・巣箱の清掃 ・給餌台活動 ・水飲み場の活動 ・ヒマワリ、トウモロコシ等の餌の栽培 ・「矢場川を清流にする会」への参加
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・野鳥の観察記録用紙にすんで記録できるようになり、探鳥活動が生活の一部にさえなってきている。 ・公開探鳥会や親子探鳥会にも積極的に参加するなど、探鳥活動が自主的・自発的に行えるようになってきた。 ・「矢場川を清流にする会」にも、積極的に参加するなど、自然保護にも関心がもてるようになってきた。 		
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・探鳥活動や愛鳥学習会及び愛鳥集会を継続することにより、野鳥に対する興味・関心をさらに高め、野鳥の棲む自然環境を守っていこうとする心情を育てる。 ・巣箱かけ、巣箱の清掃、給餌活動等の実践活動を継続することにより、積極的に、愛鳥活動を行おうとする心情を育てる。 		

6 愛鳥活動の実際（主なもの）

(1) 自然を知ろう

① 愛鳥学習会

○目的

- ・野鳥愛護に関する講話を聞いて、自然を大切にしていこうとする心情及び実践意欲を高める。
- ・野鳥の見分け方や習性を知ることにより、野鳥への興味・関心を深め、野鳥観察に必要な技能を確実に身につける。

○愛鳥学習会の内容

県鳥獣保護委員の君島さんや遠藤さんから、愛鳥についての講演をして頂く。（計4回）興味深い話が聞け、中でも、野鳥の見分け方（大きさ、飛び方、鳴き声等）、鳥の目の仕組み、観察のポイント、巣作りから巣立ちまでの子育ての様子等、わかりやすく指導を受け、野鳥観察に今まで以上に興味・関心をもった。

こどもたちの感想

1年女子

わたしは、きのう、とりのせんせいからスライドやえいがを見せてもらいました。いちばんよかったです、とりのみわけかたがわかったことです。つぎによかったことはおおたかのおやどりが、こどもにえさをはこんでいるようすを見て、「人げんとおなじだなあ」と思ったことです。

5年女子

わたしは、愛鳥学習会や日常の観察などを通して、野鳥が好きになりました。その理由は、講師の先生方から、野鳥の見分け方や特徴を教えていただいて、今では、鳴き声を聞いただけで鳥の名前が分かるようになったからです。

かわいくて美しい野鳥たちにもかわいそうなことがあります。それは人間が木をどんどん切ってしまい、自然を破壊してしまうことと、自動車や工場から出る排気ガスや煙で空気がよごれてしまうことです。木の実がなくなったり巣がつくれなくなって、鳥たちを苦しめているようで、とてもかわいそうに思います。

鳥がどれだけ苦しんでいるのかが分かれば、人間はきっと鳥を守っていくことだろうと思います。鳥はしゃべれないけれど、「自然をこわさないで」と、さけんでいると思います。人間が、鳥を今よりも愛するようになればいいなと思いました。



② 愛鳥集会

野鳥観察の発表の場として、児童集会が当てられた。各月ごとに発表の学年が決められ、観察の様子やクイズなどが行われた。

－ 5年生の例－

2学期になり、春とは違う野鳥がみられるようになったことに気付き、最近よく見られる野鳥をテーマに野鳥クイズを行った。各班ごとに野鳥の絵をかき、その絵を見せながらクイズを出して当ててもらった。例えば「全身が白で黒い足の先は黄色です。最近田んぼに多く見られます。さて、何という鳥でしょう。」1年生から6年生までほとんど全員の手が挙がり、「コサギ」の答えがすぐに当てられた。

この野鳥クイズをやって驚いたことに、1・2年生も上級生に負けないほど野鳥のことをよく知っているということであった。野鳥に対する関心が回を重ねるごとに高まってきた。



③ P T A 親子探鳥会

○目的

- ・野鳥の声や姿を楽しみながら、自然や野鳥に親しみ、野鳥愛護自然保護思想の高揚を図る。
- ・筑波地区内に飛来する野鳥の観察を通して、自分たちの住む地域を愛する気持ちを養うとともに野鳥観察の方法や技能を身につける。

○ P T A 親子探鳥会の実践活動と感想

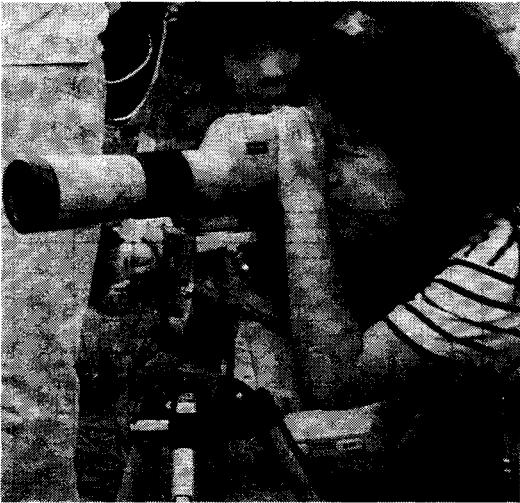
6月16日(日)、本校研究「愛鳥モデル校」活動の一環としての親子探鳥会を実施した。この日は、朝から快晴に恵まれ、40人余りの親子が参加し、和氣あいあいとした雰囲気のもとに野鳥観察が実施できた。フィールドスコープを使っての野鳥観察は初めての人が大部分だったせいか親も子も真剣そのものでスコープに食い入るようにかじりついている光景が多々みられた。お母さん方からもたくさんの感想が寄せられた。

- ・私の目には、ただの河原にしか見えなかったその場所に図鑑で見るあの美しい野鳥の姿を見たとき感激してしまった。
- ・わずかな時間の間に、何十種類もの野鳥を見ることができたまるで、避暑地にでも行った

ような気分になり、楽しい一日を親子で過ごすことができた。

・感じ方一つ、心の持ち方一つで野鳥に対して、たいへん親しみを感じるのだなと思った。

今後は、庭前に飛来する野鳥に対しても温かい気持ちで接していくこうと思った。



④ 全校探鳥会（毎週木曜日の朝）

○探鳥の方法

毎週木曜日の朝、探鳥タイムとして野鳥観察をしてきた。低学年では、野鳥が、どこで、何をしていたかを中心に観察。中学年では、色や大きさ、鳴き声、歩き方、飛び方などを観察。高学年では、中学年と同様の観点で観察し、自分の力で見つけられるようにしてきた。

低学年

野鳥のかんさつカード

11月17日(日) 天気(はれ)

スズメ が、田んぼで
こんなことをしていたよ。

絵にかこう

気がついたこと

いねうきりをして、田んぼで、あちこち、あごめをたべていた。
とてもじょうずい、口ばしてひろっていた。

中 学 年

野鳥観察ノート(中学年)

11月28日(木) 天気(晴)

鳥の名前 コサギ

鳥のスケッチ

観察場所で見られる鳥

ツバメ	シジュウカラ	カジバト
ホオジロ	カワセミ	ヒバリ
アオジ	ガラガラ	スズメ
カワウヒワ	ヒヨドリ	ショウビクチ
スズメ	モズ	セグロセキレイ
ショウビクチ	ムクドリ	ハシボンガラス
セグロセキレイ	ヒバリ	

(気がついたこと)

全身が白く、くらほし足は、一年じゅう黒く
大きな声 わからない
歩き方 一本橋をわたるみだりいやだる。
大きさ 1㍍近く巣穴を3つ。
色や大きさ 身体が白く、足は黒く、頭の毛
が黒い。
鳴き声 ひらひらする音。
飛び方 頭を下げる。
他の鳥と混ざる。
その他の特徴 1羽でいた。日本はカナの中にはじを入れ、ひらひらついてて、ぐいたぐいた。

高 学 年

野鳥観察ノート

11月28日(木) 天気(晴)

鳥の名前 (小 オ ン ロ)

鳥のスケッチ

気がついたこと

色や大きさ 身体が白く、足と白い。スズメより
大きい。
鳴き声 ナーナーナルナルナルナルナル
歩き方 ホッピング
飛び方 フリフリの上り下り。
他の鳥と混ざる。
その他の特徴 1羽でいた。日本はカナの中にはじを入れ、ひらひらついてて、ぐいたぐいた。

○記録の方法とわかったこと

毎日帰りの会で、学級ごとに、その日に見た鳥の数を調べ記録した。

学級ごとに調べた野鳥リストを整理し、学校全体の野鳥リストとして、まとめてみた。

ここでわかったことは、全部で71種類の野鳥が観察できました。次に、留鳥、夏鳥、冬鳥、旅鳥、漂鳥など、いろいろな過ごし方をする野鳥が観察できました。しかし、図鑑などに示されたような時期に必ず見られたわけではなく、野鳥によっては、みられるはずの時期に短時間しか見られなかったり、時期が少しずれて見られた野鳥もあった。

筑波地区に見られる野鳥のリスト

番号	名前	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	カツオツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	コノハサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	ヤマセミ												
4	アマツサギ												
5	アトリサギ												
6	チヌカラサギ												
7	コサザエ												
8	クロサザエ												
9	アズサザエ												
10	マガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	マガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13	コガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	トド	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	ヤシバ												
16	コジカクシバ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	ヤマトトリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	キジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	コアシザシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	カラスバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21	シラコバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	アオバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	ホトトギス												
25	カツラ												
26	ブロウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
27	ヤマセミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28	カラセミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	アカゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30	ヒバリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
31	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
32	イワツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
33	ホオジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
34	ハグセキレイン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	セグロセキレイン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
36	チバリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
37	サンショウクイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	ヒドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
39	モズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
40	アカガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
41	オオオキヌズ												
42	キレンヅラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
43	ジヨウヅラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
44	ノヒヅラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
45	アカハラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
46	シロハラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
47	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
48	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
49	オオヨシキリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50	コヨシキリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
51	エビタガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
52	ヤマガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
53	マツガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
54	ソヅニカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
55	コツヌクカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
56	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
57	ホオジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
58	アオオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
59	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
60	アトリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
61	ウツラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
62	イカル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
63	ニユウオウイスズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
64	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
65	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
66	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
67	カラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
68	オオナガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
69	コクリルガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
70	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
71	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

⑤ 町内別探鳥活動（野鳥観察班による活動）

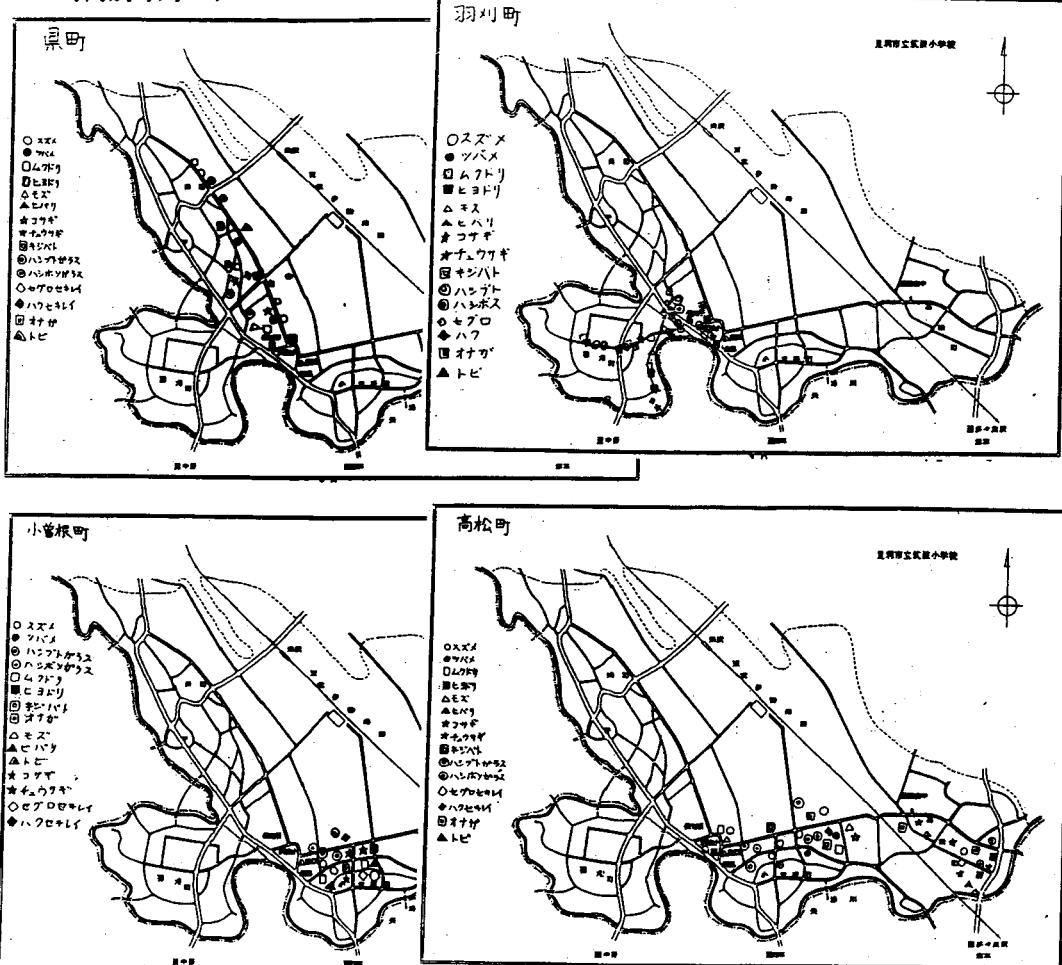
○目的

- ・自分たちが生活する郷土に飛来する野鳥観察を通して、野鳥が生息できる自然環境を守ったり、かけがえのない野鳥の生命を大切にしていこうとする心情を培う。
- ・郷土に飛来する野鳥の観察活動を通して、地域の自然を見直すとともに自然環境に対する畏敬の念と、自然環境を守っていこうとする自覚を高め、協力して自然環境を守っていこうとする態度を育成する。
- ・共通な目的を持ち、近所の児童との野鳥観察活動を通して、協力しあうことの楽しさ、大切さ、成就感等を体験させ、異学年の児童との人間関係を深める。

○観察活動の方法

- ・観察研究班ごとに班長を決め、班長を中心に計画を立てる。
- ・自分の住む地区を中心に観察・研究を進める。
- ・観察研究班同士の研究交流や情報交換を行い、共同観察研究の発展を考えていく。
- ・それぞれの観察研究を統括して、野鳥マップを作成する。

○町内別野鳥マップ



○実践活動と反省

児童は、野鳥観察班ごとに毎週火曜日の第6校時以降に下校しながら野鳥の観察を行ってきた、この観察活動を通して、児童は次のような感想を述べている。

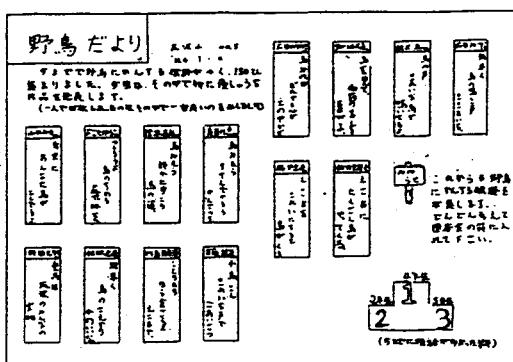
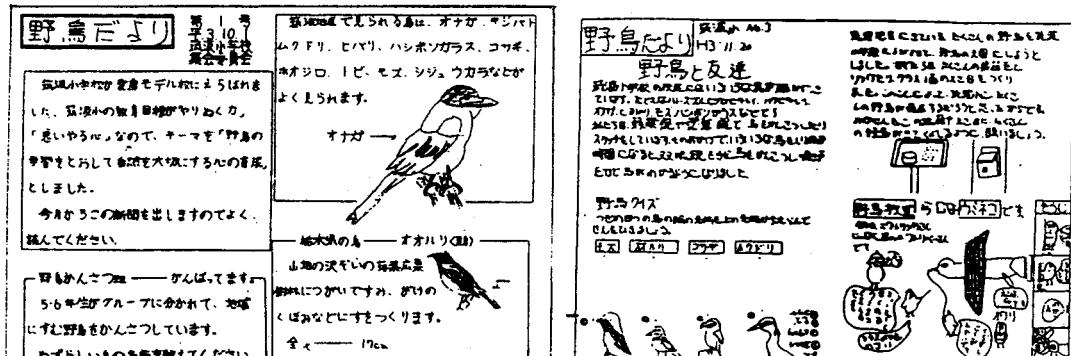
- ・名前のわからない野鳥に出会ったときに、親切に教えてもらったことがとてもうれしかった。
- ・5・6年生がいっしょに活動できたので、とっても楽しかった。
- ・地域に住む野鳥愛好家から、野鳥の名前や習性等について、教えていただき、野鳥に対して、興味や関心が高まった。
- ・地域の自然や野鳥を愛護しようとする気持ちが高まってきた。

今後、このことを土台にして、児童の興味・関心、探求心を持続させ、さらに研究活動を高めていきたいと思う。

(2) 自然に親しもう

① 「野鳥だより」の発行

各委員会では、それぞれの活動に合わせて、「野鳥だより」「かべ新聞」の発行をしてきた。内容は、校内ニュースとともに、校内にある給餌台や飛んでくる野鳥の様子、身近な野鳥に関するクイズなどです。その中で、全学年の子どもが野鳥に関心がもてるよう工夫してきた。



② 野鳥の本の紹介

図書委員会では、野鳥の出てくる本の紹介をしてきた。野鳥の出てくる本を知ってもらうために、図書室の一角にコーナーを設けたり、本の紹介を書いたりして、みんなに見てもらってきた。

また、鳥に関する図鑑をたくさん買っていただいたので、いつでも鳥について調べることができるようになった。



③ 野鳥の鳴き声

放送放送委員会では愛鳥への呼びかけとして、給食の時間に野鳥の鳴き声を放送している。

身近にいるスズメ、ヒヨドリ、キジバトは、もちろんのこと、シジュウカラ、コジュケイ、オナガなども放送した。

はじめは、何の鳥かわからなかった子が、だんだんと「あっシジュウカラだ」「ジョウビタキ」だと、分かるようになった。



④ 愛鳥ポスター

愛鳥週間にちなんで、校内愛鳥週間ポスター展を開いた。全児童の作品を教室の廊下に掲示し、互いに作品を鑑賞しあった。昨年に比べて、今年は力作ぞろいでした。



⑤ 図鑑と野鳥観察スコープ

いつでもどこでも野鳥について調べることができますように、各クラスに図鑑と野鳥観察スコープが配布された。その結果、校庭や給餌台に飛来する野鳥の名前がよくわかるようになり、野鳥に対して親しみがもてるようになった。



(3) 自然を守ろう

① 巣箱の制作と設置

○目的

- ・巣箱を設置して、野鳥のすみよい環境づくりに努める。
- ・野鳥の生態を観察するとともに、野鳥に親しみ、進んで野鳥保護に努めるようとする態度を培う。

○活動内容及び方法

- ・各学級の児童が学校裁量の時間に作製する。
- ・巣箱は、高学年の児童が学校周辺に5基設置する。かける向きは、東又は南向きにする。
(西向きは鳥がきらう)
- ・取りつけるものは、シロなわがいちばんよい。針金は、木が成長するので適さない。

○実践の反省

全児童参加による巣箱づくりが実施された。材料の必要料は、児童会の本部役員の自主的自発的な取り組みのもとに行われた。釘を打つなど、初めての経験だったが、どのクラスも一生懸命に取り組んでいた。

巣箱かけは、高学年の児童が中心になってかけてくれた。低学年の児童を思いやる精神が發揮されていたように思う。どの児童にも、たくさん野鳥が入ってくれることを願う気持ちが込められていたようだ。



② 水飲み場・給餌台の作製と設置

○目的

- ・水飲み場や給餌台を設置して、野鳥の住みよい環境づくりに努める。
- ・校内に飛来する野鳥観察を通して、野鳥に親しみ、進んで野鳥愛護・自然保護に努めようとする態度を培う。

○活動内容及び方法

・3～4年（水飲み場と給餌台）

- ・ロープウェーの東側 3の1
- ・南側ブランコの南西の位置 3の2
- ・すべり台の南西の位置（水飲み場のみ） 4の1
- ・1年生の校舎北側の植え込みの中 4の2

・5～6年（従来ある給餌台の脇に水飲み場の設置）

- ・高学年の教師及び児童は、自クラスの作業が済み次第、中学年のお手伝いに回る。
- ・水飲み場は、教師と児童とが参考例を参考に作製する。

〈例〉 ① 植木鉢の受け皿 ② ゴミバケツのふた ③ 洗面器

*水の深さは、2～5cm

*給餌台の上にのせててもよい。簡単で野鳥も安心する。

○実践の反省

3年生以上の全員参加による給餌台・水飲み場作製が実施された。材料の必要料（注文は教師）、設計、穴掘り、杭打ち等、すべて児童会の役員の自主的・自発的な取り組みのもとに行われた。杭を打ったり、穴をあけたりなど、初めての経験ではあったが協力的に行われ野鳥を筑波小学校に呼び寄せて野鳥の楽園にしようとする意気込みがどの学級にも感じられた。

給餌活動は、12月から3月の間、学級ごとに行われた。餌は、主として給食の残りのパンや果物、栽培したトウモロコシやヒマワリの種などで、たくさんの種類の野鳥が餌を求めてやってきた。「餌をおいしそうに食べている野鳥を見ているとうれしくなってきて、野鳥と友達になったような感じがした。」というような作文を書いていた児童がたくさんみられた。



③ 矢場川を清流にする会

筑波小学校の道をはさんだ南側に矢場川が流れている。昔はとてもきれいで、生活のためにたいへん役だっていた。しかし、今は、どぶ川のようで、当時のおもかけはない。

そこで、地域ぐるみで、自然をまもるために「矢場川を清流にする会」ができ、いろいろな運動が始まられた。今までに、自然をまもるために「矢場川を清流にする会」ができ、いろいろな運動が始まられた。今までに、映画上映やクリーン活動、清流コンサートなどを行ってきた。自然を守り、野鳥や動物が棲みやすい環境になることを願っている。

○矢場川を清流にする会に参加しての児童の作文

5年女子

私が、映画を見て最初に思ったのは、家の近くを流れている矢場川のことでした。私の家には、92才になるひいおばあちゃんがいます。私は時々ひいおばあちゃんから、昔の話を聞きます。その中に矢場川の話がよく出てきます。この川も昔は洗濯をする人や野菜を洗う人でぎわったそうです。30年くらい前にはほたるもいたそうです。「きたなくなつたなあ」そういったひいおばあちゃんの顔を思い出しました。

家に帰り、一番初めに映画のことを話しました。今でもきれいな川に囲まれてくらしている町のことや川のおかげで生活している人たち、時には川が道路がわりになり、観光客も集まり、広い川を一周するコースもできているそうです。でも、そうなるためには、その町に住む人たち一人一人が力を合わせて、川を守っていかなければならぬと思います。

私たちの校歌にも歌われている矢場川を地域の人たちみんなで一日も早く、ひいおばあちゃんがいっていたようなきれいな川に戻して、野鳥がたくさん集まる川にしていきたいと思います。

7 おわりに

木曜日の朝、学校の樹木や校庭に飛来する野鳥を全校児童が観察し、気付いたことを記録している。

野鳥の観察を継続することにより、野鳥の生態ばかりでなく、樹木、雑草、小動物、昆虫、季節等の微妙な変化を肌で感じ取り、自然に対する感受性が子供たちの心の中により一層培われていくものと考える。

「足利市の重点教育目標」の一つに、「郷土の自然や文化に親しみ、その保護・発展に努めましょう。」とある。この目標具現の意味からも、身近な自然を大切にし、自然に親しみ、自然から学ぶ教育を重視していく必要がある。

そして、ごく身近なところでの直接体験活動に取り組ませること自体が豊かに成長していくプロセスであり、人間の活動も自然の一部として捉え、将来の人類、生物、地球のことが考えられるような人間の育成を目指した教育を開拓していくことが大切である。

評

筑波小学校の周辺には広々とした水田が広がり、イチゴやトマトのハウスが散見される。近年、都市化の波が少しずつ押し寄せてはいるが、学校の周辺は恵まれた自然が豊富に残されている。また、筑波小学校は、学校に植えられている樹木の種類が非常に多く、緑に囲まれた学校である。その学校内外の恵まれた自然を最大限に生かして、栃木県林務観光部からの委嘱をうけた「野生生物保護（愛鳥モデル校）の研究」に取り組んだ。

平成2年度には愛鳥学習会を通して、身近に飛来する野鳥を観察する活動、平成3年度と4年度の2カ年は、探鳥活動を中心としながら、野鳥の生息する自然環境を守り取り組みを全教育活動の中に位置付けた。この中で、筑波小学校の先生方が特に、重視したことは児童自身が体験を通して愛鳥活動にかかわることであった。

先生方はあらゆる機会と場を設けて、子供達が友達とのかかわりの中で様々な活動ができるよう教育活動を組み立てた。そのため、子供達は巣箱や給餌台の製作で生まれてはじめて釘を打ち、水飲み場の作製では友達と協力して、穴を掘り、杭を打つ経験を味わった。巣箱を木にかけるときは、西向きは鳥が嫌うので南向きや東向きでなければならないことを学んでいった。ヒマワリ、トウモロコシ等の餌の栽培、実のなる木の植樹も経験した。これらの取り組みの多くは子供達にとってはじめての経験であった。

また、子供達は愛鳥集会、全校探鳥会、町内別探鳥会等、さまざまな集会で異年齢集団の中で、助け合い、協力し合って野鳥を観察することの楽しさを学んだ。PTA親子探鳥会では、図鑑そのままの美しい野鳥の姿に親子そろっての感激も味わった。

この結果、子供達の心に、野鳥へ親しみ、野鳥を友達のようにおもいやる心が生まれてきた。そして、さらに野鳥をはじめとする生き物の生命をかけがえのないものと思い、その命を守り育てる自然を大切にする心も生まれていった。

92才のひいおばあちゃんの顔を思い出しながら「矢場川を清流にする活動」に参加した子供の心には、命を育む自然を守ることの大切さを思う気持ちが確実に育っていることが伺える。